

文化交流の舞台・探究学習プログラムを通じた 訪東北教育旅行誘致拡大事業

業務仕様書

(一社) 東北観光推進機構

仕様書

1. 事業名

文化交流の舞台・探究学習プログラムを通した訪東北教育旅行誘致拡大事業

2. 目的

学習指導要領の改訂により教育旅行に探究学習を取り入れることが定められ、学校関係者は現地学習だけでなく、「事前学習」⇒「現地学習」⇒「事後学習」の一連の学習ができる修学旅行先を必要としている。

東日本大震災から13年を経た今なお復興に取り組む東北には、「震災・防災・減災」を学べる秀でた施設が整備されているほか、豊かな自然を活かした「SDGsコンテンツ」も充実しており、より深い学びを提供できる環境が整っている。この東北ならではの教育旅行コンテンツを、一連の学習プロセスを踏まえた「探究学習プログラム」として構築し、磨きあげ、周遊コースとして造成して、大手旅行会社等に提案する。他地域にはない「東北ならではの探究学習プログラム」の認知を高めるとともに、教育旅行商品の造成促進、訪東北教育旅行誘致の拡大を図る。

3. 委託金額

金 7,000,000 円（消費税及び地方消費税を含む）

記載の金額はあくまで現時点での事業上限金額であり、今後の予算確保の状況により変更となる場合がある。

4. 契約期間

契約日から 2025 年 2 月 28 日まで

5. 業務内容

（1）探究学習プログラムと主要観光地を組み込んだ教育旅行コースの造成

（ア）実施概要

青森県の SDGs プログラムを中心としたコース、岩手県と宮城県の震災遺構や伝承施設を中心としたコース、宮城県と福島県の震災遺構や伝承施設を中心としたコース、青森県と岩手県と秋田県を中心としたコースの計 4 コースを造成する。

（イ）業務内容

- ① 青森県のコース造成については、「SDGs プログラム＋地域の文化を体験できる主要観光地」を組み合わせた、北海道の学校を対象とした 2 泊 3 日のコースとすること。
- ② 岩手県・宮城県のコース造成については、「震災・防災学習プログラム＋震災を乗り越え営業を再開・継続する観光地」を体験できる、首都圏の学校を対象とした 2 泊 3 日のコースとすること。
- ③ 宮城県・福島県のコース造成については、「震災・防災学習プログラム＋震災を乗り越え営業を再開・継続する観光地」を体験できる、首都圏の学校を対象とした 2 泊 3 日のコースとすること。
- ④ 青森県・岩手県・秋田県のコース造成については、岩手県の震災伝承施設等の東日本大震災被災

地関連施設における生命・防災学習と、台湾人が好むコンテンツ（見る、聞く、触るなど）及び学校訪問（学校交流）を組み合わせたものとし、震災遺構や伝承施設と観光が融合した４泊５日（機内泊を含まない）のコースとすること。

- ⑤ コース造成においては、各県の関係機関（県や観光協会・連盟等）の意見を組み込んだコースとなるよう配慮すること。
- ⑥ 旅行商品の造成に関する知見を活用し、修学旅行において学校関係者が実際に求めるコースとなるような提案を行うこと。

（２）学校関係者を対象とした青森県への招請事業の実施

（ア）実施概要

- ① 招請日は１１月２３日（土）～２４日（日）の１泊２日とする。
- ② 東北観光推進機構（以下、「東観推」という。）が募集した北海道の学校関係者１０名程度を現地から招請し、（１）（イ）①にて造成した青森県のエデュケーション旅行コースの一部を体験いただき、探究学習プログラム及びコースに対する意見を聴取、磨き上げにつなげる。

（イ）業務内容

- ① 行程については、（１）（イ）①にて造成した「SDGs プログラム＋地域の文化を体験できる主要観光地」コースをもとにした１泊２日の行程とすること。
- ② 具体的な行程は企画提案を踏まえ、東観推や青森県関係機関と協議のうえ、決定する。
- ③ 視察内容は以下のとおりとする。なお、要件を同時に満たすことのできる施設も可とする。
 - ・SDGs プログラム １箇所以上
 - ・体験学習 １箇所以上
 - ・観光施設 修学旅行受入実績のある観光施設１箇所以上
 - ・視察に必要な撮影許可、減免許可等を得ること。なお、原則として施設職員等から視察先の説明を受けられるように調整を行うこと。
- ④ 被招請者に対する招請手続き及び諸調整（被招請者の募集業務を除く）を行うこと。
- ⑤ 被招請者の最寄りの新幹線駅もしくは空港（以下、「最寄り地」という。）から招請事業出発地、招請事業到着地から最寄り地までの旅行手配を行うこと。
- ⑥ 招請中の移動手段として、専用車を手配すること。
- ⑦ 旅行費用については、最寄り地から招請事業出発地までの交通費と、招請中の交通費、移動費、宿泊費、食事費用、見学・体験費、招請事業到着地から最寄り地までの交通費等を計上すること。
- ⑧ 招請中の被招請者の体調不良等に備え、医療連絡体制を構築すること。
- ⑨ 宿泊先にて、被招請者に向けた県担当者・地元事業者による教育旅行セミナーを実施するため、２０人程度が入れる会議室または宴会場を確保すること。
- ⑩ 宿泊、食事、添乗員等の詳細について
 - ・宿泊先及び食事施設は修学旅行の受入を実施しているもしくは検討している施設とし、宿泊は１名１室利用とする。
 - ・食事は、修学旅行において実際に提供することを想定したメニューとすること。

- ・全行程アテンドの為の添乗員を手配し、当該事業に要する経費（宿泊費、食事代等）を計上すること。また、この業務は全行程を通して同一人物とし、原則東北の観光に関する知識が豊富な者を提案すること。
- ・添乗員の業務範囲は招請事業の出発地から到着地までとする。
- ⑪ アンケート調査の実施・集計・分析に関すること
 - ・被招請者を対象としたアンケートを作成し、実施・集計・分析・報告をすること。
- ⑫ 全行程に帯同する東観推スタッフ 1 名分の旅行手配を行い、その費用を計上すること。その場合、最寄り地は仙台駅とすること。

（３）旅行会社を対象とした岩手県・宮城県への招請事業の実施

（ア）実施概要

- ① 招請日は冬季（12 月～2 月）の 1 泊 2 日とする。
- ② 東観推が募集した関東の旅行会社 10 名程度を現地から招請し、（１）（イ）②にて造成した岩手県・宮城県の教育旅行コースの一部を体験いただき、探究学習プログラム及びコースに対する意見を聴取、磨き上げにつなげる。

（イ）業務内容

- ① 行程については、（１）（イ）②にて造成した「震災・防災学習プログラム＋震災を乗り越え営業を再開・継続する観光地」コースをもとにした 1 泊 2 日の行程とする。
- ② 具体的な行程は企画提案を踏まえ、東観推や岩手県・宮城県関係機関と協議のうえ、決定する。
- ③ 視察内容は以下のとおりとする。なお、要件を同時に満たすことのできる施設も可とする。
 - ・震災・防災学習プログラム 1 箇所以上
 - ・体験学習 1 箇所以上
 - ・観光施設 修学旅行受入実績のある観光施設 1 箇所以上
 - ・視察に必要な撮影許可、減免許可等を得ること。なお、原則として施設職員等から視察先の説明を受けられるように調整を行うこと。
- ④ そのほかの業務内容については、（２）（イ）④～⑫と同様とする。

（４）学校関係者を対象とした宮城県・福島県への招請事業の実施

（ア）実施概要

- ① 招請日は冬季（1 月～2 月）の土日 1 泊 2 日とする。
- ② 東観推が募集した関東の学校関係者 10 名程度を現地から招請し、（１）（イ）③にて造成した宮城県・福島県の教育旅行コースの一部を体験いただき、探究学習プログラム及びコースに対する意見を聴取、磨き上げにつなげる。

（イ）業務内容

- ① 行程については、（１）（イ）③にて造成した「震災・防災学習プログラム＋震災を乗り越え営業を再開・継続する観光地」コースをもとにした 1 泊 2 日の行程とする。
- ② 具体的な行程は企画提案を踏まえ、東観推や宮城県・福島県関係機関と協議のうえ、決定する。

- ③ 視察内容は以下のとおりとする。なお、要件を同時に満たすことのできる施設も可とする。
- ・震災・防災学習プログラム 1箇所以上
 - ・体験学習 1箇所以上
 - ・観光施設 修学旅行受入実績のある観光施設 1箇所以上
 - ・視察に必要な撮影許可、減免許可等を得ること。なお、原則として施設職員等から視察先の説明を受けられるように調整を行うこと。
- ④ そのほかの業務内容については、(2)(イ)④～⑫と同様とする。

(5) 台湾の学校関係者を対象とした青森県・岩手県・秋田県への招請事業の実施

(ア) 実施概要

- ① 招請日は冬季(1月～2月)の4泊5日(機内泊を含まない)とする。
- ② 東観推の意向を踏まえ、受託事業者が手配する学校等より3名を台湾現地から招請し、(1)(イ)④にて造成した青森県・岩手県・秋田県の実地教育旅行コースを体験いただき、探究学習プログラム及びコースに対する意見を聴取、磨き上げにつなげる。

(イ) 業務内容

- ① 行程については、(1)(イ)④にて造成した「震災・防災学習プログラム+台湾人の好むコンテンツ」コースとする。
- ② 具体的な行程は企画提案を踏まえ、東観推や青森県・岩手県・秋田県関係機関と協議のうえ、決定する。
- ③ 被招請者に対する招請手続き及び諸調整を行うこと。
- ④ 被招請者の出発空港から招請事業を経て帰国までの旅行手配を行うこと。なお、航空機は仙台空港発着の台北＝仙台定期便を利用すること。
- ⑤ 招請中の移動手段として、専用車を手配すること。
- ⑥ 旅行費用については、出発空港から日本までの渡航費用と日本国内の交通費、移動費、宿泊費、見学・体験費、招請中の食事費用、日本から帰着空港までの渡航費用等を計上すること。
- ⑦ 招請中の被招請者の体調不良等に備え、医療連絡体制を構築すること。
- ⑧ 視察内容は以下のとおりとする。
- ・震災関連施設 岩手県にある施設を1箇所
 - ・学校訪問(交流) 岩手県にある高校を1校、青森県または秋田県にある高校を1校
 - ・体験学習 青森県と岩手県と秋田県で各1箇所
 - ・観光施設 青森県と岩手県と秋田県で各1箇所
 - ・視察に必要な撮影許可、減免許可等を得ること。なお、原則として施設職員等から視察先の説明を受けられるように調整を行うこと。
- ⑨ 宿泊、通訳、添乗員等の詳細について
- ・宿泊先及び食事施設は訪日教育旅行の受入に積極的な施設とし、宿泊は1名1室利用とする。
 - ・食事は、訪日教育旅行において実際に提供することを想定したメニューとすること。
 - ・全行程アテンドの為に通訳及び添乗員を手配し、当該事業に要する経費(宿泊費、食事代等)

を計上すること。また、この業務は全行程を通して同一人物とし、原則東北の観光に関する知識が豊富（震災伝承施設等の知識を含む）で、通訳者はかつ通訳能力に長けた者を提案すること。（添乗員と通訳は兼務不可）

・通訳および添乗員の業務範囲は日本到着空港から日本出発空港までとする。

⑩ アンケート調査の実施・集計・分析に関すること

・被招請者を対象としたアンケートを作成し、翻訳・実施・集計・分析・報告をすること。なお、原則として電子アンケートとすること。

⑪ その他

・招請事業終了後、被招請者に必要な情報提供等を行い、台湾から東北へ教育旅行誘致されるよう継続してフォローアップを行うこと。

⑫ 全行程に帯同する東観推スタッフ 1 名分の旅行手配を行い、その費用を計上すること。その場合、最寄り地は仙台駅とすること。

（6）旅行商品の造成・提案データの作成

（ア）実施概要

招請事業にて集約したアンケートの意見や分析結果を踏まえ、（1）で造成したコースの磨きあげを行い、周遊モデルコースを完成させる。旅行会社による学校への修学旅行コース提案の場合、実際に提案に使用できる媒体を作成する。

（イ）業務内容

① （2）～（5）の招請事業にて集約したアンケートの意見や分析結果を踏まえ、（1）にて造成したコースの磨きあげを行い、修学旅行としての周遊モデルコースを完成させる。

② 完成させた修学旅行の周遊モデルコースを、旅行会社が学校に修学旅行コースを提案する際に活用できる提案書データ（パワーポイントやワードファイル等）として作成し、東観推に納品する。提案書内容には、モデルコースの行程表や施設の概要、受け入れ可能人数等の情報を掲載すること。

③ 提案書データの活用・情報発信方法を提案及び実施すること。

6. 事業報告書に関すること

2025 年 2 月 28 日までに事業報告書を提出すること。

7. その他

（1）受託者は、委託者と締結した「業務委託契約書」の各条項を遵守し業務を遂行すること。

（2）受託者は、業務に要する機材及び消耗品について準備すること。

（3）受託者は、業務の各段階において業務の遂行について随時報告を行い委託者の了解を得ること。

（4）受託者が業務を遂行する上で必要な資料等は、受託者において入手すること。

（5）委託者が委託金額を加算するなど、本契約の変更を必要と判断した際には、受託者と協議を行った上で、本契約の内容を変更することができる。

- (6) 本業務は、国の補助金を活用した事業のため、事業終了後のフォローアップ調査等の対象となる。受託者は、東観推がフォローアップ調査等の回答を作成する場合には、東観推に協力すること。

以上